



研修プログラムと 参加者の学び

※氏名・所属は参加した当時のものです。

※教員による原文を活かして掲載しておりますので、

一部、表現のばらつきがありますがご了承ください。

また、記載内容はJICAの見解とは異なる場合があります。



研修全体の日程



	場所	日程	活動内容
第1回 派遣前研修	オンライン	2023年9月29日（金）	オリエンテーション、研修の流れ説明、提出物の確認、役割分担、安全管理確認
第2回 派遣前研修	JICA 北海道（帯広） 士別町	2023年10月21日（土） 10月22日（日）	キルギス国基本情報収集 国際理解教育手法を学ぶ
第3回 派遣前研修	JICA 北海道（札幌）	2023年11月25日（土） 11月26日（日）	旅程確認、現地での活動準備、 渡航手続き等 ※国際理解教育 セミナー（実践編）を兼ねる
海外 現地研修	キルギス共和国	2023年12月22日（金） ～12月30日（土） ※移動日含む	学校訪問、児童/生徒/教員、地 域住民との交流やインタビュー、 JICA プロジェクト現場視 察、JICA 海外協力隊活動視 察、NGO 活動現場視察
第1回 帰国後研修	オンライン	2024年1月20日（土）	指導案検討会
第2回 帰国後研修	JICA 北海道（札幌）	2024年2月3日（土） 2月4日（日）	模擬授業、指導案検討会
成果報告会	オンライン	2024年2月24日（土）	成果報告会の実施





第1回派遣前研修 プログラム

日時：2023年9月29日（金）

場所：オンライン（ZOOM）

参加：研修参加者9名、JICA 北海道（札幌）市民参加協力課、
JICA 北海道（帯広）道東業務課、青年海外協力協会（JOCA）

17:45～	受 付
18:00～18:05	開会挨拶・研修趣旨 JICA 北海道（札幌）市民参加協力課 桐山 あす美
18:05～18:15 (10分)	研修全体の流れ
18:15～18:35 (20分)	スタッフ紹介～参加者自己紹介（1人2分） 【研修にかける思い】 【研修後、生徒に見せたいもの】
18:35～18:55 (20分)	お互いを知るワーク 「四つのわたし、一つはウソ」
18:55～19:10 (15分)	役割分担 ・リーダー 1名 ・副リーダー 1名 ・会計 2名 ・記録、画像動画管理 2名 ・学校交流係 2名 キルギス共和国情報の“宿題”分担（2人1組で） A 気候、自然、歴史、民族、言語、宗教 B 衣食住、観光、文化（踊り、音楽、芸術） C 教育制度、学校、政治、社会システム D 産業、経済、外交、日本との関係、その他諸外国や国際社会との関係 【Breakout ルームへ】
19:10～19:20 (10分)	研修日記の分担 ・派遣前研修① ・派遣前研修② ・派遣前研修③ 【キルギス研修1日目～8日目】 ・研修1日目 ・2日目 ・3日目 ・4日目 ・5日目 ・6日目 ・7日目 ・8日目 ・帰国後研修① ・帰国後研修② ・成果報告会
19:20～19:30 (10分)	JICA、安全管理に関するクイズ
19:30～19:40 (10分)	SNS グループ作成、次回以降の連絡事項、写真撮影、アンケート
19:40	終了



研修日記



9月29日	第1回派遣前研修	氏名 富谷 唯士
●研修の内容、行なったこと ①研修の概要説明 ②自己紹介・アイスブレイク「四つのわたし、一つはウソ」 ③役割分担 リーダー「伊藤」 サブリーダー「佐々木」 会計「加瀬」 サブ会計「靫山」 記録・画像動画管理「富谷・大須田」 学校交流係「依田・合田」 ④次回のJICA帯広研修までの宿題分担 ⑤研修日記の分担（派遣前・後の分担は確定した。キルギス研修1日目は加瀬8日目は佐々木となった。2～7日目は、追々相談して決める運びとなった。） ⑥安全に関するクイズ		
●研修を受けての学び 再度、クイズ形式で安全管理について確認した。事前に身を守るための『無抵抗主義』などの方法を学んでおくことで、トラブルに巻き込まれた際にも危険な行動を避けることができると感じた。		
●研修を受けて感じたこと 自己紹介の中でキルギスへの研修へ意気込みを研修参加者から聞いた。それぞれが異なる情熱をもっていることを知り、授業計画の策定に取り組むことが楽しみに感じた。また、役割分担を進める中で、キルギスでの海外研修がますます待ち遠しく感じた。 次回は、JICA帯広での研修となる。次回までの宿題に真摯に取り組む、研修への期待と意欲を高めていきたい。		





第2回 派遣前研修 プログラム

日時：2023年10月21日（土）～22日（日）

場所：JICA 北海道（帯広）、札幌市

参加：研修参加者9名、研修アドバイザー、JICA 北海道（札幌）市民参加協力課、
JICA 北海道（帯広）道東業務課、青年海外協力協会（JOCA）、
JICA キルギス事務所 National Staff

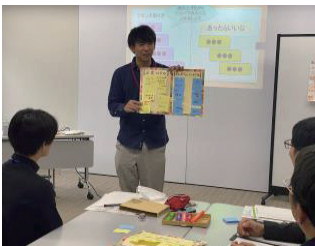
【1日目】10月21日（土）		会場：オリエンテーションルーム 進行：青年海外協力協会（JOCA）
12:30～	受 付	
13:00～13:10	開会挨拶	JICA 北海道（札幌）市民参加協力課課長 橋本 文
13:10～13:15	スタッフ紹介	JICA 職員・JOCA スタッフ
13:15～13:30 (15分)	JICA 北海道（帯広）のご紹介	JICA 北海道（帯広）代表 木全 洋一郎
13:30～14:30 (60分)	キルギス基本情報共有会 ※発表各5分 2人一組 A 気候、自然、歴史、民族、言語、宗教 : 大須田・伊藤チーム B 衣食住、観光、文化（踊り、音楽、芸術など）: 富谷・靄山チーム C 教育制度、学校、政治、社会システム: 依田・合田チーム D 産業、経済、外交、日本との関係、国際社会との関係 : 加瀬・佐々木チーム ・「もっと知りたい！キルギス紹介」（40分） 講師：JICA キルギス事務所 National Staff アレレーコバ・スベトラーナ	
14:30～14:40	休憩	
14:40～15:40 (60分)	【体験的・対話的 教材体験】 「SDGs 理解に繋がる教材を体験しよう」 ハシムさんと学ぶ、無人島ゲーム 講師：JICA 北海道（帯広）開発教育アドバイザー 帯広市立八千代中学校 水谷 由美	
15:40～16:30 (50分)	【講義】国際理解教育概論（研修の目的含め） 講師：教師海外研修アドバイザー 橋詰 典明	
16:30～16:40	休憩	
16:40～17:30 (50分)	【講義】教材作りへの資料のまとめ方 フィールドワークにおけるポイント等 講師：教師海外研修アドバイザー 東峰 宏紀	
17:30～17:45 (15分)	JICA 草の根技術協力事業について 「キルギス国地域におけるフードバリューチェーンを活用した 実践的な農業教育プロジェクト（地域活性化特別枠）」の紹介 JICA 北海道（帯広）道東業務課 野々垣 真実	
17:45～18:00 (15分)	参加者打合せ、諸注意事項	青年海外協力協会（JOCA）

【2日目】10月22日（日） 会場：士幌町農村運動公園 ※JICA 帯広センター草の根技術協力 本邦研修と合同 進行：JICA 北海道（帯広）道東業務課 野々垣 真実	
8:50	JICA 帯広センターロビー集合
9:00～9:50 (50 分)	JICA 帯広センター → 士幌町へ移動
10:00～11:00 (60 分)	【フィールドワーク】 草の根技術協力事業 本邦研修視察 「キルギス国地域におけるフードバリューチェーンを活用した 実践的な農業教育プロジェクト（地域活性化特別枠）」 ・ 実施期間：2021 年 11 月 26 日～2024 年 10 月 31 日（約 3 年） ・ 日本側実施機関：自治体→士幌町、実施機関→株式会社 CheerS 活動実施主体→士幌高校 ・ 相手国側実施機関：キルギス国立農業大学付属農業技術カレッジ 目標：農業技術カレッジにおいてフードバリューチェーンを活用した 実践的な教育活動が行われる ＜アウトプット＞ ① カレッジの教員が実践的な農業教育について理解する ② 士幌高校の「志プロジェクト（志 Lab）」の活動モデルを応用し、 両校の生徒により地域資源を生かした商品開発が行われる※2023 年度 ③カレッジにおける実践的な農業教育の手順書（指導法）が作成される
11:00～12:00 (60 分)	士幌町 → JICA 帯広センターへ移動 フィールドワーク振り返り 講師：教師海外研修アドバイザー 橋詰 典明 講師：教師海外研修アドバイザー 東峰 宏紀
12:00～12:30 (30 分)	【任意参加】JICA 帯広センターおびるっく案内ツアー



研修日記



10月21日	第2回派遣前研修 1日目	氏名 合田 知絵美
●研修の内容、行なったこと ・スタッフ紹介・JICA北海道（帯広）の紹介 ・キルギス基本情報共有会・体験的・対話的な教材体験 ・JICA草の根技術協力事業について ・教材作りへの資料のまとめ方 フィールドワークにおけるポイント等 ・国際理解教育概論（研修の目的含め）		
●研修を受けての学び 主に体験的・対話的な教材を用いた指導方法について、自分達が実際に体験しながら学びました。どの教材・指導方法についても導入から展開への流れがスムーズで、自然と引き込まれました。活動を通して、導入の段階で生徒の興味・関心を引くことや導入から展開への繋げ方、そして多様な価値観を尊重することの重要性について改めて考えさせられました。模擬授業に加え、日頃の授業にも積極的に取り入れ、学びを深めていきたいです。		
●研修を受けて感じたこと 特に水谷アドバイザー、東峰アドバイザー、橋詰アドバイザーの講義を受けて、普段の授業における自身の指導方法を見直したいという思いを強くしました。育てたい生徒像を叶えるために、体験的・対話的教材がいかに効果的であるかを知る貴重な機会となりました。中でも、東峰アドバイザーのフォトランゲージによる指導方法は、私も同様の活動をしましたが、同じ写真の順番を変えて提示するという発想はありませんでした。自分が欲しい答えを生徒から引き出すため、縛りをかけていたように思います。同じ教材でも切り口を変えることで見える景色も変わり、生徒の多様な発想を引き出すことができると学びました。		

10月22日	第2回派遣前研修 2日目	氏名 靱山 修斗
●研修の内容、行なったこと 8時50分、JICA帯広センター研修室へ集合し、渡航に関する事項について連絡等を行った。保険内容等について確認し、記名を行った。 その後、車2台に分かれて乗車し、土幌町収穫祭に向かった。車は、小中学校チームと、高校チームに分かれた。小中チームでは、中部から参加予定の小島さんとオンラインを活用してお話した。収穫祭に到着後、土幌高校とキルギスの農業カレッジの皆さんが出店しているところへお邪魔し、お話を伺った。教員方や生徒にも質問に答えていただいた。 帰り道には、車内で振り返りを行った。各人がそれぞれの視点で話すことで、情報の共有にもなっていた。また、渡航に関する疑問なども話題になった。		
●研修を受けての学び カレッジでの学びには、専門科目に必ず経営がセットになって学んでいるそう。ある学生からは、会社を経営するのが夢だと聞いた。商品開発や会社経営という視点でも土幌町との交流が良い学びになっているのであろう。シーベリー入りのクッキーは、シーベリーの風味も感じられて大変おいしかった。この交流がJICAから離れた後、どのように発展するのかに興味を湧いた。 JICA帯広センター1Fの衣装展示と、土幌収穫祭で見た衣装と、どれも刺繍が大変素敵であった。フェルト生地帽子もとても暖かそうで、教材にしたいと思えるものであった。あらためて本物に触れる機会の素晴らしさを感じたので、現地でもしっかり情報を蓄えたい。そのためにも、事前の情報収集、自分なりの視点やテーマを持つこと、写真等記録を取れる機材の準備が必要だと感じた。		
●研修を受けて感じたこと 個人的には、やはり言葉の壁、コミュニケーションの取りづらさを実感した。これについては、スマートフォン等の機器の力を借りつつ、しっかりと下準備が必要であると思う。自分なりの視点やテーマについて整理をし、聞きたいことややりたいことを考えておくことで、時間を無駄にせず取材ができるであろう。そもそも、キルギスについてはまだまだ知らないことがたくさんあることも実感したので、情報収集を続けたい。どの方も出店中の忙しい中、快く質問に答えてくださり、温かさ優しさを感じた。		



第3回 派遣前研修 プログラム1日目

(国際理解教育セミナー【実践編】)

日時：2023年11月25日(土) 13:00～18:00

場所：JICA 北海道(札幌) ブリーフィングルーム

人数：30名(定員)

参加：海外研修参加者9名、研修アドバイザー、JICA 北海道(札幌) 市民参加協力課、
JICA 北海道(帯広) 道東業務課、青年海外協力協会(JOCA)

【国際理解教育セミナー】		進行：青年海外協力協会(JOCA)
～13:00	受付	
13:00～13:05 (5分)	国際理解教育セミナー開会挨拶、プログラムの説明、スタッフ紹介 佐々木 美穂(JICA 北海道(札幌) 次長)	
13:05～14:55 (110分)	【アイスブレイク】『部屋の四隅』(10分) JOCA 沢井 【手法紹介】 ①フォトランゲージ(30分) 田中 孝治(石狩市立石狩八幡小学校) ②スネーク&ラダー(30分) 口岩 竜馬(江別市立江別中央小学校) ③ランキング(30分) 東峰 宏紀(千歳市立支笏湖小学校) 【振り返り 活動論】(10分)	
14:55～15:00 (5分)	告知、アンケート、国際理解教育セミナー閉会	
15:00～15:15 (15分)	休憩	
【教師海外研修第3回派遣前研修】		進行：青年海外協力協会(JOCA)
15:15～15:45 (30分)	【JICA 北海道(札幌) について】 佐々木 美穂(JICA 北海道(札幌) 次長)	
15:45～16:45 (60分)	【教師海外研修で作成した授業紹介・実践発表】 『フィリピンでの研修を通じて～スモーキーマウンテンから教わったこと～』 2013年度研修参加者：口岩 竜馬(江別市立江別中央小学校)	
16:45～17:05 (20分)	【授業紹介・実践発表のふりかえり】 橋詰 典明(株式会社はやて 職業指導員) 東峰 宏紀(千歳市立支笏湖小学校)	
17:05～17:35 (30分)	【キルギス現地研修日程案の説明】 野々垣 真実(JICA 北海道(帯広) 道東業務課)	
17:35～17:45 (10分)	【指導者研修【実践編】を振り返って～キルギス研修にどう結び付けるか～】 橋詰 典明(株式会社はやて 職業指導員)	
17:45～18:00 (15分)	健康調査票記入・たびレジ登録等、業務連絡	
18:00	終了	



第3回 派遣前研修 プログラム2日目

日時：2023年11月26日（日）9:00～12:00

場所：JICA 北海道（札幌） プリーフィングルーム

参加：海外研修参加者9名、研修アドバイザー、JICA 北海道（札幌）市民参加協力課、
JICA 北海道（帯広）道東業務課、青年海外協力協会（JOCA）

【2日目】11月26日（日） 会場：プリーフィングルーム 進行：（公益社団法人）青年海外協力協会	
8:45～	受付
9:00	研修開始
9:00～9:30 (30分)	【2019年度教師海外研修体験談】 『キルギスへの教師海外派遣研修で得られたもの』 2019年度研修参加者：山本 つぐみ（札幌市立中央中学校） 質疑応答5分程度
9:30～10:30 (60分)	【教師海外研修で作成した授業紹介・実践発表】 『誘拐結婚から考える』 2019年度研修参加者：立田 和久（市立札幌清田高等学校）
10:30～11:00 (30分)	【授業紹介・実践発表のふりかえり】 橋詰 典明（株式会社はやて 職業指導員） 【二日間の学びを通して教材作りの構想発表】1人1,2分程度 参加教員の発表
11:00～11:05 (5分)	休憩
11:05～11:55 (50分)	参加者打ち合わせ（交流案・お土産案・担当物品等について）
11:55～12:00 (5分)	業務連絡
12:00	終了



研修日記



11月25日	第3回派遣前研修 1日目	氏名 富谷 唯士
●研修の内容、行なったこと 【アイスブレイク】『部屋の四隅』 【手法紹介】フォトランゲージ・スネーク&ラダー・ランキング 【JICA札幌についての紹介】 【教師海外研修で作成した授業紹介・実践発表】 【実践発表の授業を受けてのフィードバック】 【キルギス現地研修の日程の案内】		
●研修を受けての学び 授業をデザインしていくうえでのキーとなる手法について体験することができました。体験型ワークショップにすることで、子どもたちも海外に行った気持ちで、楽しく授業に参加することができるのではないかと思います。この体験型ワークショップで単元計画を考えていく上で終末をどのようにもっていくかが大切なポイントになると思いました。		
●研修を受けて感じたこと 今回のワークショップでは、田中先生・口岩先生・東峰先生の体験型指導方法を学ぶことができました。どれも魅力的なものばかりでしたが、「大切なのはどの手法を使うかではなく、何を子どもたちに身に付けさせたいか『ねらい』を達成するために使う手法だ。」ということ学びました。特にスネーク&ラダーで行った、活動を通して知らず知らずのうちに自分ごととして考えられる活動を目指した授業をデザインして行きたいと思いました。		

11月26日	第3回派遣前研修 2日目	氏名 大須田 翼
●研修の内容、行なったこと ・札幌市立中央中学校の山本つぐみ先生〔2019年度研修体験談〕 ・「キルギスへの海外研修で得られたもの」 ・〔2019年度研修で作成した授業・実践発表紹介〕 「誘拐結婚から考える」 ・〔授業紹介・実践発表の振り返り〕橋詰典明アドバイザー ・〔2日間の学びを通しての授業構想発表〕 ・参加者打ち合わせ		
●研修を受けての学び 山本先生の体験談発表で改めて参加型手法は生徒が自分事として捉えられる手段だと確認できた。 また、授業構想は出発前にきちんと立てておくことで、現地での取材がより教材作成に適したものになっていくとわかった。インターネットにはキルギスに関する情報がないので現地ですできるだけたくさん情報収集しておくべきだと分かった。また、ジェンダーギャップ指数がキルギスより日本のほうが低いことに驚いた。		
●研修を受けて感じたこと 今回の研修を受け、より具体的にどのような授業を作成したいか考えて現地に入る必要があると感じた。それによって撮る写真やインタビューする内容などが変わってくると考えられる。そして何より来月のキルギス研修が楽しみになった。		

キルギス現地研修の行程

日付	訪問都市	訪問場所	活動内容
12/22 (金)	羽田-成田	北海道内各地より成田へ	移動
12/23 (土)	成田- イスタンブール		移動
12/24 (日)	イスタンブール- ビシュケク	オシュバザール、 首都ビシュケク市街	キルギス概要説明、キルギス食文化 理解、市街視察・散策
12/25 (月)	ビシュケク	「OVOP（一村一品）」センター JICA 技術協力プロジェクト ビシュケク第 24 番学校	OVOP（一村一品）プロジェクト見 学 NCDs プロジェクト視察 学校訪問・授業見学 JICA 海外協力隊隊員、JICA 職員と の交流
12/26 (火)	ビシュケク- コチコル	【ビシュケク内】 クズルトゥー村 ショルブラック村 カラシャル村 コチコル市	キルギス文化体験、文化理解 OVOP ワークショップ視察 JICA 海外協力隊隊員との交流
12/27 (水)	コチコル ブラナ ビシュケク	アラバエフ学校 ブラナの塔	キルギス人教員・JICA 海外協力隊 隊員の授業見学 研修メンバー企画交流 世界遺産見学
12/28 (木)	ビシュケク	キルギス天才日本学校 キルギス農業大学 農業技術カレッジ JICA キルギス事務所	学校訪問、研修メンバー企画交流 ラボ・温室栽培ハウス見学 土幌町との草の根プロジェクトカウ ンターパート訪問 事務所訪問、挨拶、報告
12/29 (金)	ビシュケク- イスタンブール		移動
12/30 (土)	成田 - 北海道内各空港	成田～羽田～北海道各地へ	移動 - 帰宅



研修日記



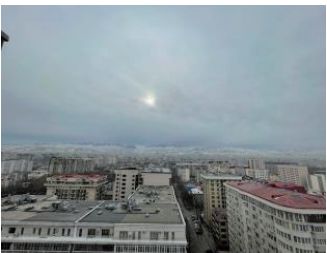
12月22日	キルギス研修1日目 全員成田に集合	氏名 加瀬 利恵
●研修の内容、行なったこと 本日は居住地から成田市のホテルへ集合することが目的であった。 それぞれ新千歳空港、旭川空港、帯広空港、女満別空港、中標津空港から羽田空港に向かい、リムジンバスで羽田空港から成田空港へ移動した。天候不順による遅延などもあったが、参加者は全員元気に集合することができた。 全員で成田空港で夕食を共にして成田市のホテルにて1泊することに。		
		
●研修を受けての学び 参加者が顔を合わせるの、11月25日の札幌市での第3回派遣前研修ぶりだったので夕食では、それぞれの近況報告をする姿が多く見られた。(12月7日にオンラインミーティングを実施しているが、会うのは久しぶり) これから1週間以上日本を離れるので、全員が噛みしめて日本の味を堪能しているように感じた。		
●研修を受けて感じたこと この日に初めて参加者と同行者の全員が集まることができた。この研修に向けてそれぞれが、多くの時間をかけて準備を整え、目的を持って集合できたことに感慨深いものを感じた。アクシデントもなく集合できたので幸先の良いスタートが切れたと思う。		

12月23日	キルギス研修2日目	氏名 富谷 唯士
●研修の内容、行なったこと 成田空港からトルコのイスタンブール空港へ移動した。 約10時間もの長距離のフライトとなった。機内では、キルギスの国紹介があったので、視聴しこれからの研修のモチベーションを高めていた。 2018年に開港したイスタンブール空港へと着陸すると色々な民族の人の多さに目を奪われた。また、施設も新しいものが多くゴージャスな印象を受けた。		
●研修を受けての学び イスタンブール空港では、設備に着目して視察をしていた。障がいの有無に関わらず誰もが便利に使える設備が多いように感じた。トイレでは、男女のマークの他に車椅子用のマークを大きく掲示していた。特に良いと感じたのは、右の写真のエスカレーターである。入り口に赤・緑の印が目立つようになっていた。遠くから見たときにどこから入れるかが、わかりやすかった。また、空港内を移動する車は、全て電気自動車となっており、世界的なクリーンなエネルギーを使うトレンドとなっていることを実感した。		
●研修を受けて感じたこと イスタンブール空港で特に印象に残っているのが、物価についてだ。右の写真のスイーツが1つ320TL（トルコリラ）となっており日本円だと約1500円ほどとなっていた。飲料水なども1000円程度となっており物価の高さについて衝撃を受けた。日本の子どもたちがよく知っているレットブルも売られており1つ約800円だった。身近な物の値段を比較することで日本経済と世界経済の結びつきに興味関心をもちやすくなるのではないかと考えた。		



研修日記



12月24日	キルギス研修3日目	氏名 大須田 翼
●研修の内容、行なったこと 朝、9時30分頃（キルギス時間）首都ビシュケクのマナス国際空港に到着した。その後宿泊先のホテルまでバスで移動した。約2時間ホテルでの休憩を挟んだ後、oblakeにて食事とJICAスタッフとお会いした。17階のレストランからはとても美しい山々が見えたが、同時に排気ガスで景色が少し濁っているように見えた。まさにイメージしていた発展途上国の景色そのものであった。現地スタッフの方から、キルギスにおけるJICA事業のこれまでの経緯を説明して頂いた。その後、現地の協力隊員の方々にアテンドしていただきながら、Osh Bazaar（オシュバザール）の視察とショッピングを行った。その後スーパーなども見学した。夜には、キルギスJICAの所長と懇親会で食事をした。		
●研修を受けての学び JICAの事業の説明を受けて、「技術提供は投資である」との言葉が心に残った。発展途上国への支援は一方的で支援する側にはメリットはなく、ボランティア的であると考えていたからだ。また、オシュバザールとスーパーを見学した。同じビシュケクでも大きな格差を感じた。		
●研修を受けて感じたこと 前述の通り、発展途上国の景色を目の前にして「発展途上」という言葉をきちんと理解できた気がした。 オシュバザールのように20年前の日本のような景色とスーパーマーケットのような近代の日本と似たような景色が混在しており、非常に興味深く感じた。海外を訪れたのは初めてだったため、大きな刺激を受けることができたように感じる。		
		

12月25日	キルギス研修4日目	氏名 伊藤 麻美
●研修の内容、行なったこと ・OVOPセンター見学 ・NDGs（非感染症疾患）早期発見・早期治療に関するプロジェクト視察 ・24番学校訪問 ・JICA海外協力隊員との懇親会		
●研修を受けての学び ・技術協力プロジェクトを投資と考え、指標を数値化し末端まで届く支援をしている。技術支援で終わるのではなく、ビジネスが成り立つまでの支援を行っている。 ・キルギスの医療に関わる人員、薬が不足している。機器も古いものを使っていた。 ・礼儀正しく、熱心に学習する子どもが多い。交流では意欲が高い子どもが多かった。 ・JICA海外協力隊員からキルギスに来て体験したこと、感じたことなどを聞いた。		
●研修を受けて感じたこと キルギスで行われているOVOPはキルギスの地域産業の課題に合わせたものではあるが、日本の地方の産業の課題解決にもつながるものだと感じた。キルギスの医療関係者も教員も女性が多いことに驚いた。日本とは違い給与が安いという課題があるようだ。医療関係者が不足していることは日本と共通する課題だと思った。24番学校の子どもたちが皆、礼儀正しく意欲的に学習していることに驚いた。日本文化も知っていることが多い。日本人にあまり知られていないキルギスで日本は有名なのだと気づいた。		
		



研修日記



12月26日	キルギス研修5日目	氏名 依田 幸子
●研修の内容、行なったこと ビシュケクのホテルを8時に出発。10ソムでお手洗いを使用できる快適な「道の駅」での休憩を挟み、一路、カラシャール村のOVOP、羊毛フェルトのワークショップを見学。スリッパの履き心地の良さに感動！続いてショルブブラック村でJICAが無印と提携した羊毛フェルトマスコットのワークショップを見学。昼食は、クズルトゥー村のルスランさん一家のところで。おもてなしに欠かせないボルソックを揚げたていただき、キルギスの家庭料理の代表、肉じゃがのようなドゥンダマをはじめ、テーブルいっぱいの料理に娘さんの細やかなおもてなしを受ける。昼食後、キルギスの伝統的な移動式住宅ボズウイ（ロシア語ではユルタ）の建設ワークショップを体験。釘を使わず、組木やひもで結ぶことで固定。ルスランさん家族は手際よく組み建てていき、フェルトをかぶせると完成。中は予想よりも広く、あたたかく、とても快適。イシクル湖の南側を走り、コチコルへ。Olive hotelにチェックイン後、コチコルで活動する協力隊員2名の方と夕食。		
●研修を受けての学び キルギスで大きな成果をあげているOVOPの作業現場を、実際に見ることができたことが大きな収穫であった。作業場が少し寒いのが気になったが、皆、自分の仕事に誇りを持ち、生活が充実していることがインタビューから随所に感じられた。誰もが幸せになる支援の形を見た気がし、ビシュケクで聞いた原口氏の話からも、キルギス各地での成功経験を生かし、今後中央アジア全域に広げていく未来に希望を感じた。また、ルスラン家において、キルギスにおける伝統的な生活（食と住）を体験することができた。先人の知恵が随所に感じられ、今なお受け継がれていることがすばらしいと感じた。遊牧生活には厳しさも伴うだろうが、自由に草原を馬で駆ける姿はキルギス人の魂であるように感じた。首都であるビシュケクと地方の村の格差は、便利さ、衛生面などかなりあるものの、それぞれの幸せの形がある。今後、地域の活性化（存続）のために雇用の創出、高齢化などどう向き合うかは日本と同様の課題である。		
●研修を受けて感じたこと キルギスにおけるOVOPが、非常に成熟した段階に達していると感じた。さまざまな問題点があったと思うが、日本の持つノウハウと現地の方のマンパワーが良い循環を生んでいる。全体を把握するJICA専門家である原口氏の話に感銘を受けたが、実際の現場で生き生きと作業する彼女らの姿を見て、本当にうまくいっているのだということを肌で感じ、国際支援の意義を強く感じた。そして、現場と繋ぐナルギザさんの存在がとても重要だと感じた。理論と実践の間に立つ現場監督的な立場が要であると感じる。現場の実情を知り、寄り添う一方で、要求される高い水準をクリアするために厳しい指導も必要だ。首都であるビシュケクを離れ、村の生活を垣間見たことで、キルギスという国をより多角的に知ることができた。村での生活がキルギス人の伝統的なものであるということを感じることができると同時に、観光資源として、体験型観光と共存する形で保存するという近代的なあり方も感じた。		





研修日記



12月27日	キルギス研修6日目	氏名 靱山 修斗
●研修の内容、行なったこと コチコルにある、原さやかさんが勤務している学校へ訪問した。まずは、温かい歓迎を受け、ダンスや歌、詩の朗読の発表を披露していただいた。その後、少しでも交流をし、グループに分かれキルギス人教師の授業を見学した。私は、テクノロジーと数学の授業を参観した。テクノロジーの授業では、女子が家庭科のような内容で裁縫を、男子が技術科のような内容で、羊の骨を使った工作を行っていた。次に、原さやかさんの英語の授業を参観し、たくさんの準備と仕掛けをされた授業を参観することができた。最後に、交流の時間ということで、ジャンボリミッキーと一緒に踊り、桜の木を完成させた。そして、花は咲くを合唱した。子どもたちの笑顔もあり、温かい時間を過ごすことができた。 ビシュケクへの帰り道、世界遺産のブラナの塔へ登り、JICAキルギスの安藤さんのドローンで撮影も行った。迫力のある映像が撮れており、良い機会となった。ビシュケクへついてからは、スーパーでの買い物などをして過ごした。		
●研修を受けての学び コチコルの学校を訪問させていただき、ビシュケクや日本との比較をしながら、学ぶことができた。まず、とても温かい歓迎をしていただき、改めて、おもてなしの国の文化を感じた。各授業を参観している中で、子どもたちの頑張りを感じるとともに、先生方が工夫を凝らして授業を行っていることがわかった。私が参観した家庭科の授業では、伝統的な模様を使ったフェルトのマット作りをしていたが、これまでの作品を見ていると、小さいもの、わかりやすい図柄のものを経て、今回の大きな作品の制作をするように計画されていた。作るものも、ポシェットから馬乳酒を作る牛皮の容器など、伝統的な文化を大事にしているところもわかった。技術の授業で制作していた、羊のひざの骨で作った首飾りをプレゼントしてくれ、とても嬉しかった。私はこの後ずっとネクタイがわりにした。		 
●研修を受けて感じたこと 都市ビシュケクの学校と、地方コチコルの学校との違いが明らかになった。どちらの学校も、子どもたちは人懐っこく、とても笑顔で接してくれる。質問をしたり、ノートを見せてもらったりと、優しく応じてくれる子どもたちだった。また、挨拶をきちんとするところは、文化的にも大事にされていることがわかった。一方で、学習面では、児童間の差、教員間の差を感じた。挙手をしてたくさん発言する子がよく評価されていたり、学習に追いつくことができていない子がそのままになっている状況も見られた。どのような支援や学校としてのシステムを構築していけるかについては、日本の知見が参考になるのではないかと感じた。継続して協力できるという点で、JICAの支援は貴重なものになると考える。		



研修日記



12月28日	キルギス研修7日目	氏名 合田 知絵美
●研修の内容、行なったこと ・キルギス天才日本学校視察、教師海外研修企画交流、先生方との意見交換、特別支援部門見学 ・農業大学ラボ・ビニールハウス視察、農業技術カレッジにて意見交換 ・JICAキルギス事務所挨拶、報告		
●研修を受けての学び キルギス天才日本学校は2019年に開校し、幼稚園や特別支援学級も設置している近代的な学校であった。日本語の標札や掲示物、折り紙の装飾、札幌国際情報高校の生徒からの手紙等、校内の至るところに日本を感じた。様々な授業を見学し、特に印象的だったのは子ども達が意欲的に授業に臨む姿。教師の問いに対して積極的に挙手・発言する生徒が多く、間違いを恐れずに自分の考えや意見を述べる姿勢が見られた。農業大学では、ラボやビニールハウスを見学し、キルギスにおける農業の課題やJICAによる技術援助について学んだ。農業技術カレッジでは、学生によるプレゼンや意見交換を通じて、土幌高校との連携や学校生活、将来の展望等について知ることができた。JICAキルギス事務所では、各自の研修の感想と帰国後の授業について、池田副所長に報告した。		
●研修を受けて感じたこと 先日訪問した2校の子ども達と同様に、キルギス天才日本学校及び農業技術カレッジの子ども達・学生達が温かく私たちを受け入れてくれたことが本当に嬉しかった。ここでも言葉の壁に直面し、子ども達が学校で英語や日本語を学んでいても会話＝アウトプットは困難であるとわかり、日本と同様の状況が見られた。同時に、学校で強制的にではなく、実生活で言語習得の重要性を痛感してから学ぶのでは、学習意欲及び習得の度合いに著しい差があると感じた。その一方で、農業技術カレッジで伊藤先生が意気投合した学生さんから、キルギスの楽器「コムズ」をプレゼントされるという素敵な出来事から、言語は重要なコミュニケーションツールだが絶対的なものではないこと、相手を思う気持ちには国境はないとも感じた。		

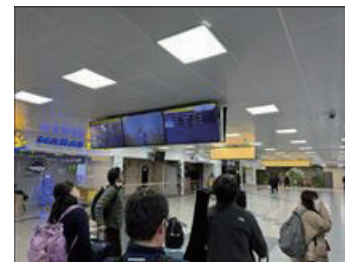




研修日記



12月29日	研修名 キルギス研修8日目	氏名 佐々木 征司
●研修の内容、行なったこと 東経75度付近にありながら、標準時はGMT+6なので7:30でも相変わらずまだ暗い。キルギス最終日、ラマダホテルの最後の朝食も名残惜しく、たっぷり味わった。特にロシアンクレープと蜂の巣のまの蜂蜜に、キルギスのヨーグルトやフレッシュなジャムをつけて食べるのが至福の時だった。またロシア圏の人々の味噌汁とも言えるボルシチは、爽やかさと温かさで体内が浄化されるような美味しさだった。フレッシュな蒸し野菜もたっぷりで、ビタミンをしっかりと摂取。出発直前に、橋詰アドバイザーをして「向こう10年は言われるぞ(笑)」と言わしめるハプニングもあった。これも、旅の疲れをかき消すようなスパイスとなった。		
●研修を受けての学び マナス空港から、約6時間のフライトでトルコのイスタンブール空港へ。乗り換えは60分と短く、慌ただしく乗り換え。世界有数の発着数を誇る超過密空港であるため、保安検査なども長蛇の列だった。復路では買い物はあまりできなかったが、トルコの物価の高さに改めて驚いた。空港価格もあるが、ちょっとした飲み物だけでも日本円で1000円以上の金額になる。聞くところによると、市中でもかなり物価の上昇が見られるようだ。かつて、ハイパーインフレに直面したトルコの今後や、一般庶民の暮らしぶりへの影響が気掛かりになった。それと同時に円の価値はもとより、日本の対外競争力や経済成長のあり方に一抹の不安を感じざるを得なかった。		
●研修を受けて感じたこと JICA北海道の野々垣さん桐山さんには24時間体制で支えていただき、十勝毎日新聞社の菊池記者も同行の仲間として、大変楽しい時間を共有することができました。キルギスJICA事務所の安藤職員には、お忙しい中で全行程への同行や綿密なプランニングをしていただきました。我々の教材集めや授業作りに結びつき、今のキルギスを読み解く上で重要なポイントの設定など、きめ細かい配慮に心より感謝を申し上げます。また、通訳のアリザットさん、現地協力隊員の方々、OVOPの原口さん、薬ゼミの中島さんをはじめ、この場には書ききれないほど、たくさんの方々にサポートを受けました。おかげで右も左もわからない土地での活動を、想像を遥かに上回る驚きや感動と共に充実させることができました。本当にありがとうございました。		



第1回 帰国後研修 プログラム

日時 2024年1月20日(土) 13:00~19:00

会場 オンライン(ZOOM)

- 目的 ① キルギスでの研修を通して収集した情報を整理、共有する。
- ② 各自が作成した指導案の共有・検討作業をととして、改善点を明確にし、よりよい教材化を行う。
- ③ 2/24(土)成果報告会での模擬授業形式の発表者4名(特別支援学校、小学校、中学校、高校から1名ずつ)、教材紹介セッション式発表者4名、研修報告者1名を決定する。

時間	内容	担当者/講師
13:00	開会	
13:00~13:05 (5分)	帰国後プログラム確認	JICA 職員 JOCA
13:05~13:15 (10分)	アドバイザーより教材づくりおよび実践についての提言、ポイント整理、助言	橋詰アドバイザー 東峰アドバイザー
13:15~15:00 (105分)	指導案の発表および検討 1名につき要旨発表15分以内+ディスカッション20分。35分×3名 ① 13:15-13:50 加瀬 教諭 ② 13:50-14:25 依田 教諭 ③ 14:25-15:00 靱山 教諭	各参加者 橋詰アドバイザー 東峰アドバイザー 水谷アドバイザー
15:00~15:05	休憩	
15:05~16:50 (105分)	④ 15:05-15:40 小島 教諭 ⑤ 15:40-16:15 伊藤 教諭 ⑥ 16:15-16:50 佐々木 教諭	各参加者 橋詰アドバイザー 東峰アドバイザー 水谷アドバイザー
16:50~16:55	休憩	
16:55~18:40 (105分)	⑦ 16:55-17:30 大須田 教諭 ⑧ 17:30-18:05 合田 教諭 ⑨ 18:05-18:40 富谷 教諭	各参加者 橋詰アドバイザー 東峰アドバイザー 水谷アドバイザー
18:40~18:50 (10分)	成果報告会発表者選定 2/24 成果報告会での模擬授業形式発表者(4名)教材紹介セッション式発表者(4名)研修報告者(1名)を決定する。	リーダー サブリーダー
18:50~19:00 (10分)	諸連絡および打ち合わせ ・第2回帰国後研修について	JICA 職員 JOCA
19:00	閉会	



研修日記



1月20日	第1回帰国後研修	氏名 依田 幸子
●研修の内容、行なったこと キルギス研修を終え、これから実施する授業実戦の指導案検討を行った。小学生向け指導案(富谷、靫山、小島作成)は東峰先生、中学生高校生向け指導案(伊藤、合田、大須田、佐々木、加瀬、依田作成)は橋詰先生が、事前に見てくださった。それぞれが15分で予定している授業について説明し、どうすればよりよい授業を実施することができるか、想定され得る問題点についてディスカッションを行った。		
●研修を受けての学び 写真は、靫山先生が作成した「衣食住ゲーム」のカードである。それぞれの先生が工夫された教材や授業の流れを考えており、参考になった。学校種や生徒の実態についてベストなアプローチは普段から接している先生自身だと思うので、その中でさまざまな提案や意見から良いと思うものを取り入れる機会となった。今後の授業実践に向けて内容を深める機会となった。		
●研修を受けて感じたこと アドバイザーの先生からのアドバイスにより、気づかされることが多くあった。アイデアを出し合えば、より深まるということを実感した。長時間の研修になったが、有意義な時間となった。		





第2回 帰国後研修 プログラム

日時：2024年2月3日（土）13:00～18:00、2月4日（日）9:00～12:00

場所：JICA 北海道（札幌）センター オリエンテーションルーム

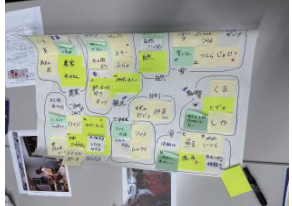
【1日目】2月3日（土）13:00～18:00	
12:30～13:00	受付
13:00～13:05 (5分)	国際理解教育セミナー開会挨拶、プログラムの説明 JICA 職員、JOCA
13:05～13:10 (5分)	アドバイザーからの助言 橋詰アドバイザー、東峰アドバイザー
13:10～13:55 (45分)	① 加瀬先生【生活単元学習】 仕事をするって何だろう。～ワーク イン ライフ～ 模擬授業（30分）＋フィードバック（15分）
13:55～14:40 (45分)	② 小島先生【総合・国語・社会他】「多文化共生の未来都市・知立」ってどういうこと？ 模擬授業（30分）＋フィードバック（15分）
14:40～14:45	休憩
14:45～15:30 (45分)	③ 靄山先生【家庭科】暖かく快適に過ごす着方・住まい方 模擬授業（30分）＋フィードバック（15分）
15:30～16:15 (45分)	④ 富谷先生【総合的な学習】たくさん知ろう、世界のこと 模擬授業（30分）＋フィードバック（15分）
16:15～16:20	休憩
16:20～17:05 (45分)	⑤ 伊藤先生【地理】世界との繋がり 〈橋詰 ADV〉 模擬授業（30分）＋フィードバック（15分）
17:05～17:50 (45分)	⑥ 佐々木先生【公民】日本は国際社会に対して どんな力を発揮できる？ 模擬授業（30分）＋フィードバック（15分）
17:50～18:00 (45分)	振り返り、明日に関する連絡

【2日目】2月4日（日）9:00～12:00	
8:45～9:00	受 付
9:00～9:45 (45分)	⑦ 大須田先生【外国語】Let' s learn about Kyrgyz. 模擬授業（30分）＋フィードバック（15分）
9:45～9:50	休憩
9:50～10:35 (45分)	⑧ 合田先生【英語】フォトストーリーを活用した共感的理解を育む授業 模擬授業（30分）＋フィードバック（15分）
10:35～10:40	休憩
10:40～11:25 (45分)	⑨ 依田先生【国際理解】国際協力を考える 模擬授業（30分）＋フィードバック（15分）
11:25～11:45 (20分)	振り返り、アドバイザーからのアドバイス 橋詰アドバイザー、東峰アドバイザー、水谷アドバイザー
11:45～12:00 (15分)	記念撮影、諸連絡
12:00	解散



研修日記



2月3日	第2回帰国後研修 1日目	氏名 伊藤 麻美
6名の教員の指導案検討を行った。特別支援学校、小学校、中学校と異なる校種の教員が担当だった。30分と実際よりも短い時間ではあったが、模擬授業を行い意見を出し合って指導案検討を行った。一人ひとり異なるテーマで、異なる手法を使った授業を行っていた。自分自身も模擬授業を行い実践に向けてアドバイザーからだけでなく、参加した教員、JICA職員からも助言をもらい指導案のブラッシュアップを行った。		
●研修を受けての学び ・実際に生徒の立場で模擬授業に参加することで、生徒の立場でキルギスを学ぶことができた。一緒にキルギスに行き、同じ体験をしたはずなのに、授業を受けることで改めてキルギスや自分自身が住む北海道について発見することができた。 ・模擬授業を行わせてもらい資料が自分のねらい通りになるのかどうかや時間の感覚など確認することができた。自分にはないアイデアをもらったり、より良い資料を提供してもらえたりとブラッシュアップすることができた。		
●研修を受けて感じたこと 授業をする先生の思いや考えによって同じ経験をしていてもねらいが違って生徒に気づかせたい部分が異なることが面白いと思った。模擬授業を体験し、改めて気づかせること、新たな学びがあった。また、いろいろな考えで異なる手法が使われていたので、自分が作った授業を1つで終わらせるのではなく、他の教材も作ってみたいと思った。		

2月4日	第2回帰国後研修 2日目	氏名 佐々木 征司
●研修の内容、行なったこと 3名の先生方が考えている実践について、模擬授業を通して交流し、取り入れたいポイントや今後ブラッシュアップするための課題について共有した。アドバイザーの先生、参加者全員で協議することができた。また、キルギスで農業開発の支援の取り組みに携わっている星野さんも参加していただき、助言を受けた。		
●研修を受けての学び 実際に目の前で教材に触れ、授業者の意図するところなどを直接聞くことができ、より理解が深まることとなった。また実際に体験することで、今後自分の授業に活かしてみたい点なども見つけることができた。		
●研修を受けて感じたこと 2日日程であったが、両日ともに内容の濃いものとなった。指導過程を構成する際に、課題とそれを達成するための活動が適切かどうかを、常に確認しながら授業づくりを進めることが重要だと改めて感じた。どうしても教師がやりたいことにフォーカスしがちだが、準備が大きくなるため徐々に収束させていくことや、生徒の視点に立って、教材を組み立てる柔軟な思考が大切だと感じた。		



2023年度 JICA 北海道教師海外研修(キルギス共和国)
成果報告会(国際理解教育セミナー【共有編】)
プログラム



期間：2024 年 2 月 24 日（土）

場所：オンライン（ZOOM）

参加：海外研修参加者 9 名、研修アドバイザー、JICA 北海道（札幌）市民参加協力課、
 JICA 北海道（帯広）道東業務課、青年海外協力協会（JOCA）、一般参加者

11:00～ 12:45	スタッフリハーサル	JICA、JOCA
12:45	受付開始	
13:00～ 13:05	成果報告会スタート 開会挨拶 JICA 北海道市民参加協力課	JICA 桐山あす美
13:05～ 13:20 (15 分)	本研修の概要 JICA 中部教員長期社会体験研修員 小島教諭	小島教諭
13:20～ 14:20 (60 分)	模擬授業体験①（授業 40 分、振り返り 20 分） A：【生活単元学習】「仕事をするって何だろう。～ワーク イン ライフ～」 北海道中標津支援学校 加瀬教諭 B：【公民】「日本は国際社会に対してどんな力を発揮できる？」 北広島市立西部中学校 佐々木教諭	Breakout ルーム A,B A：加瀬教諭 B：佐々木教諭
	模擬授業体験②（授業 40 分、振り返り 20 分） A：【総合的な学習】「たくさん知ろう、世界のこと」 音更町立下音更小学校 富谷教諭 B：【外国語】「Let's learn about Kyrgyz.」 北海道上川高等学校 大須田教諭	Breakout ルーム A,B A：富谷教諭 B：大須田教諭
15:20～ 15:30	休憩	
15:30～ 16:00 (30 分)	教材紹介セッション①（紹介 20 分、フィードバック 10 分） A：【家庭科】「暖かく快適に過ごす着方・住まい方」 幕別町立札幌北小学校 靱山教諭 B：【英語】「フォトストーリーを活用した共感的理解を育む授業」 北海道湧別高等学校 合田教諭	Breakout ルーム A,B A：靱山教諭 B：合田教諭
	教材紹介セッション②（紹介 20 分、フィードバック 10 分） A：【地理】「世界との繋がり」 当別町立とうべつ学園 伊藤教諭 B：【国際理解】「国際協力を考える」 北海道札幌国際情報高等学校 依田教諭	Breakout ルーム A,B A：伊藤教諭 B：依田教諭
16:30～ 17:00	参加者の方々からの感想、アドバイザーからのコメント、JICA からの諸連絡、記念撮影	アドバイザー、JOCA 進行
17:00	終了	



研修日記



2月24日	成果報告会	氏名 加瀬 利恵
●研修の内容、行なったこと 13:00-13:20 本研修の概要（JICA中部 小島雅実） 13:20-14:20 模擬授業体験①（A：加瀬利恵【生活単元学習】 B：佐々木征司【公民】） 14:20-15:20 模擬授業体験②（A：富谷唯士【総合的な学習の時間】 B：大須田翼【外国語】） 15:30-16:00 教材紹介セッション①（A：靱山修斗【家庭科】 B：合田知絵美【外国語】） 16:00-16:30 教材紹介セッション②（A：伊藤麻美【地理】 B：依田幸子【国語】） 16:30-17:00 参加者の方々からの感想		
●研修を受けての学び それぞれが研修をとおして作り上げてきた授業や教材を紹介することで様々な意見やアドバイスをもらい、更なるブラッシュアップにつながった。また、キルギスという国の実情を教材化することで国際理解教育を身近に感じてもらう機会となった。		
●研修を受けて感じたこと 試行錯誤を繰り返して作り上げた教材に対する反響がとても大きく、異校種間における情報共有の重要性を改めて感じた。さらに、教材について説明をすることで作る過程や思いを伝えることができたことにセミナーを実施する必要性を感じた。このオンラインセミナーでは、教材の深まりと普及につながったと思う。		

